

nano tech 2006 への参加報告

(社)ニューガラスフォーラム

松田 弘一

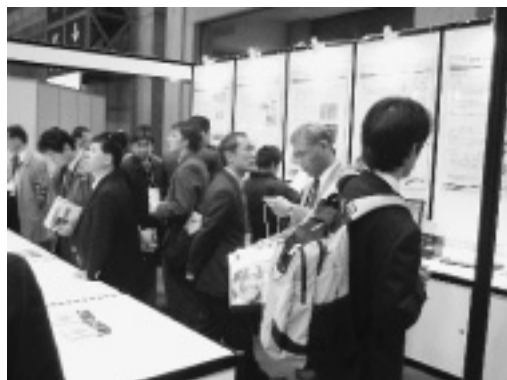
Report on the nano tech 2006 Exhibition

Koichi Matsuda

New Glass Form



多数の来訪者 (写真 1)



多数の来訪者 (写真 2)

1. ナノガラスプロジェクト最終年度のナノガラス展示

恒例になった国際ナノテクノロジー総合展 (nano tech 2006) も今年で開催 5 年目にあたり、2006 年 2 月 21 日 (火) から 23 日 (木) の 3 日間、昨年と同じく東京ビックサイトで開催された。今回は参加者、国内 264 企業・大学・団体と海外 17 カ国 120 企業・団体にのぼり、入場者も約 4 万 50 百人と昨年よりも 60 百人も増加して、名実ともに世界最大のナノの展示会と

なった。

ナノガラス 3 プロジェクト (ナノガラス技術、F21 デバイス用ナノガラス及び F21 ディスプレイ用ナノガラス) とも今年 (2006 年) の 3 月 20 日で終了するため、プロジェクト受託各社*1 が、NEDO ゾーン中 21 ブースの 1 ブースに合同で、展示ブース面積も昨年の 1.5 倍の広さのブースにパネル及び成果物である試料を出展、展示した。またナノガラス技術プロジェクトの共同実施先である 6 大学 (京都大学、東京大学、北陸先端科学技術大学院大学、東北大学、名古屋工業大学及び三重大学) も今回初めてパネル等を出展し、説明要員も京都大学から派遣頂き、成果を大いにアピールした。このように今年度は、前回よりも多くの内容の

〒104-0005 東京都港区新橋 2-12-15
田中田村町ビル 8 階
(社)ニューガラスフォーラム
TEL 03-3595-2775
FAX 03-3595-0255
E-mail: matsuda@ngf.or.jp

濃い成果試料や実用化に近い試料を展示し、説明用液晶パネルの活用、展示物のレイアウト等、今までより工夫を凝らした結果により、ナノガラスブース内は連日昨年を上回る見学者で溢れ、非常に盛況であった(写真1,2)。これを裏付けるように見学者の名刺も約290枚と昨年の3倍ほど集まった。

ちなみにナノガラス技術プロジェクトは2003年2月に千葉幕張で開催された第2回国際ナノテクノロジー総合展(nano tech 2003, 入場者数:約2万5千人)から参加しており、2004年3月に東京ビックサイトで開催された第3回(参加社:国内108企業・大学・団体と海外18カ国62企業・団体, 入場者数:約3万25百人), 2005年2月に東京ビックサイトで開催された第4回(参加社:国内225企業・大学・団体と海外87企業・団体, 入場者数:約3万90百人)にも引き続き参加し、パネルや成果物である試料を出展している。

注)*1:プロジェクト受託企業, 研究所
 ・ナノガラス技術:(独)産総研関西センター,
 (社)ニューガラスフォーラム(以後NGFと記載),
 ・F21 デバイス用ナノガラス:(株)日立製作所, 日立電線(株), 日本板硝子(株), NGF,
 ・F21 ディスプレイ用ナノガラス:セントラル硝子(株)

2. NEDO ゾーン「最優秀技術賞」の受賞

今年も例年通り, 入場者のアンケート調査によるNEDO表彰があった。これは, 前半2日間の入場者に対して, NEDOプロジェクトの中の優秀な技術に関するアンケート調査を行なって, その得票により①最優秀技術賞, ②独創技術賞, ③事業化有望技術賞の3賞を決定するもので, 結果は, 当フォーラムのナノガラス関係が①の「最優秀技術賞」を受賞し, プロジェクト最終年度の締めくくりとして有終の美を飾ることができた。これもひとえにナノガラス技術プロジェクトリーダーである平尾京大教授, 及びデバイス用ナノガラスプロジェクトリーダーである村山東北大助教授, それにプロジェクト参加企業の研究員達や出向研究員達, 共同実施先の大学の諸先生方や産総研の研究員達, 及びフォーラムの研究員達の本プロジェクト研究開発への熱意と努力の賜と考える。感謝!

なお, ②の「独創技術賞」はナノ粒子(財化学技術戦略推進機構), ③の「事業化有望技術賞」はナノコーティング技術(財ファインセラミックセンター)が受賞した。

最終日の午後1時過ぎに表彰式が展示会場のメインシアターであり, フォーラムの大阪研究室の研究員が代表でNEDOの本城理事から表彰を受けた(写真3)。今年は賞状と副賞が一体になった盾を頂いた(写真4)。これとは別に, フェア関係専門委員が企業出展から選んだ

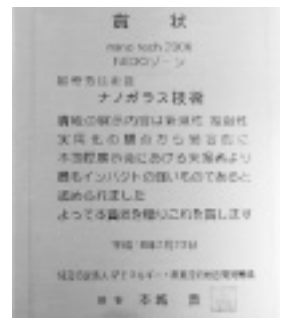


最優秀技術賞授与式(写真3)



表彰盾

表彰盾・最優秀技術賞(写真4)



賞状内容

表彰があり、今年は東芝がナノテク大賞を受賞した。

ちなみに、ナノガラス技術プロジェクトは過去に、第2回目は「独創技術賞」と「実用化有望賞」を、第3回目は2年連続となる「独創技術賞」を頂いた。NGFは、おかげさまでこの4年間に前述の3賞全てを受賞することができた。大変誇らしいことだと思う。

3. こぼれ話

NEDOは、今年度企業ブースでは当たり前になっているコンパニオン制度を導入したので、ナノガラスのブースにも見目麗しき女性が1名派遣された。この女性がすばらしく、ノルマを課していた訳ではないが、我々NGF本部の男性達とは比べものにならないくらい（失礼！）積極的に名刺を集めてくれた。具体的にはパンフレットは名刺との交換で渡す、名刺なしでパンフレットを持って行った人には追いか

けて名刺をもらうというぐらい徹底していた。それでも見学者はいやな顔をせず渡していたので、美人は徳だな、やはり、もちはもちや（プロ）だと実感させられた。この結果、290枚と例年の3倍ぐらい集まった。

今回も液晶画面で10分間のオリジナルの「未来を拓くガラス産業（GIC制作）」を放映したが、モニターの設置場所の関係か、昨年よりはコンスタントに多くの人が見てくれた（写真5）。実は、フェアの後で、それを見た大学からの依頼に応じて貸し出した。

ともあれ、産総研 西井グループリーダー、趣味リサーチリーダー、NGF 田中室長、平野部長研究員の積極的なフェア参加指導、産総研、NGF、大学及び出展4社の研究員による手厚く、分かり易い説明、NGF本部と研究者との事前準備連携の良さ等により、今回の展示も大成功で、最終を飾るにふさわしい展示会となった。



ビデオに見入る見学者達（写真5）